

8月12日 ゼカリヤ書9章9～10節

【解説と黙想】

平和を実現する

ゼカリヤ書が記された時代は、マケドニアのアレキサンダー大王が死に、帝国がマケドニア、プトレマイオス朝エジプト、セレウコス朝シリアの三つに分裂した頃であると言われます。イスラエルの人々にとって不安と戦争の時代でした。自分たちはどのような道を歩むべきか、そのことが本当に問われる時代でした。そういう時代のただ中で、預言者ゼカリヤは平和の預言を語ったのです。

9章1節～8節では、マケドニアのアレキサンダー大王によるパレスチナ侵略の出来事が記されています。しかし、預言者はこの出来事の背後に神の御心を見ます。神はアレキサンダーの侵略を用いて、強欲な金儲主義に支配されていたティルス（現・レバノン）の町を裁かれました。同様に、地中海沿岸のペリシテ人の町々をも裁かれました。しかしこの時、イスラエルだけは侵略を免れたのです。それはイスラエルが強力な軍隊を持っていたからではありません。8節にあるように、主がイスラエルのために見張りを立て、見守っていてくださったからです。ここから、私たちは、主がご自分の民を虐げる者、攻撃する者たちの手から守ってくださるという約束を見ることができます。

ゼカリヤはこのように語った後、9節、10節で平和の預言を語ります。軍馬に乗ったアレキサンダー大王は、エルサレムに入ってくることはありませんでした。しかし、預言者は9節で軍馬ではなく、ろばの子に乗ってエルサレムに入場なさる方があると語ります。その方こそが、イスラエルの真の王であると預言しているのです。この方はこの世の王たちのように高ぶる者ではなくて、自らを低くし、へりくだる方であると言います。

軍馬は戦争の道具です。しかし、ろばの子は戦争の道具にはなりません。それ故、ろばの子に乗った王は決して戦争をしません。それなら、彼は何をするのか。それは、ろばが荷物を背負うように、人間の重荷、

罪の重荷を背負ってくださるのです。そもそも人間が互いに殺し合い、戦争をするのは罪があるからです。ろばの子に乗った王は、この罪の重荷を負うことによって、真の平和への道を開いてくださいます。それ故、ゼカリヤは大国の脅威や戦争の不安のただ中にあるイスラエルの民に対して、軍馬に乗って来る王、戦争する王を求めるのではなく、ろばの子に乗ってくる王、戦争ではなく平和を実現する王の到来こそ、待ち望むべきであると預言したのです。

このゼカリヤ書の預言は、イエス・キリストがろばの子に乗ってエルサレムに入場されたことによって、そして、私たちの罪のために十字架に架かってくださったことによって成就しました。それによって、私たちは罪赦され、神との和解を与えられ、真の平和を与えられているのです。しかし、ゼカリヤは10節でさらに驚くべき預言を語ります。ゼカリヤは、ろばの子に乗った王によって、イスラエルからすべての戦車も軍馬も、戦いの弓も廃棄されるというのです。そして、究極的には、あらゆる武力を打ち壊し、世界中に平和をもたらすと預言しているのです。まさに主の平和は全世界にまで及ぶと言うのです。

ここには終末の幻が預言されています。10節で預言されている、この世界からすべての武器や戦争が廃絶され平和が到来するのは、キリストが再び来られる終末の時です。しかし大事なことは、ろばの子に乗った王が既に一度この世界に来てくださったという事実です。そうである以上、10節で預言されている世界平和はまだ完成してはいませんが、既にそれは始まっているのです。だからこそ、主イエスの平和を与えられているキリスト者と教会は、どのような時代にあっても、この世にあって平和の砦となり、戦争の廃絶と平和の実現のために、祈り、働いていくことを求められているのです。
(弓矢健児)

《参照箇所》 イザヤ2:4、マタイ5:9、マタイ21:4～9、マタイ26:52、コロサイ1:20
《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問91、「子どものための平和カテキズム」

8月12日 ゼカリヤ書9章9～10節

【説教展開例】

平和を実現する

◇..... 単元のねらい◇

今週15日、日本は戦後73回目の敗戦記念日を迎えます。また、6日は広島原爆の日、9日は長崎原爆の日でした。日本はかつて、富国強兵の大義名分の下、国民を戦争に駆り立て、朝鮮半島や中国を侵略し、アジア太平洋全体に軍隊を派遣して行きました。そうした戦争の結果、アジア・太平洋各国に2000万人以上の死者を含む被害をもたらしました。そうした戦争の反省にたって戦後日本の国は憲法9条によって戦争を放棄し、二度と戦争をしないことを誓ったのです。私たちは二度と戦争の過ちを繰り返してはなりません。イエスが私たちに求めておられることは武器を持つことではなく、放棄することであり、戦争することではなく、敵をも愛し、平和に生きることです。そのためにイエスはこの世界に来てくださり、私たちの平和となってくださいました。この時期、私たちは聖書の御言葉を通して、改めて平和への責任を自覚したいと思います。

「平和を実現するイエスさま」

みんなは8月15日が何の日か知っていますか。8月15日は敗戦記念日です。今から73年前、日本が戦争に負けて、戦争が終わった日です。日本はかつて韓国・朝鮮や中国を侵略し、またアメリカとも戦争しました。その戦争で、たくさんの人たちが死んでしまったのです。たくさんのお子ともたちも死にました。

たまにアニメや映画で、戦争が正しいことであるかのように描かれていることがあります。しかし、それはウソです。人間同士が殺し合う戦争は悪いことです。正しい戦争などありません。戦争はたくさんの人を殺し、みんなの楽しい生活をめちゃくちゃにし、家族をバラバラにします。自然が壊され、動物たちも殺されてしまいます。戦争はみんなを不幸にし、みんなを悲しくさせるのです。

神さまが人間を造ってくださったのは、戦争をするためではありません。神さまはみんなが仲良く、助け合って、平和に生きるために人間を造ってくださったのです。それにも関わらず、人間は繰り返し戦争をし、殺し合ってきました。今の世界の中で戦争が起っています。本当に悲しいことです。そして、誰よりも神さまがそのことを悲しんでおられます。

しかし、神さまはただ悲しんでおられるだけではありません。神さまは、わたした

ち人間の世界にほんとうの平和を与えてくださる方です。そのために神さまは平和を実現する王さまを、わたしたちの世界に与えてくださると約束なさいました。神さまは、イスラエルの預言者たちを通して、そのことを約束なさってこられました。預言者ゼカリヤもそうした約束を神さまから与えられた一人です。

当時、この世の王さまや支配者たちは自分の力や強さを国民に見せつけるため、立派な馬に乗って都に入場しました。なぜならば、馬は軍馬として戦争のために用いられたからです。そして強い馬や戦車をたくさん持っていて、戦争に勝利する王さまが立派な王さまだと考えられていました。しかし、神さまが約束なされた王さまはそうではありません。預言者ゼカリヤはろばの子に乗った王さまがやって来ると預言したのです。

馬のように強くもなく、走るのも遅いろばは戦争に役立ちません。馬に比べて見栄えもよくありません。ろばの子は王さまが乗るのにまったく相応しくない動物です。ろばの子に乗って来る王さまなど考えられません。それにも関わらず、どうして、神さまが約束なされた王さまはろばの子に乗って来るのでしょうか。それは、その方が戦争をする王さまではなく、戦争を止め

させ、平和を実現する王さまであったからです。

また、ろばは戦争に使えませんが、みんなの重い荷物を運んでくれます。走るのははやくありませんが、重い荷物を積んで遠くまで歩いてくれます。そうやってたくさんの方の役に立つのです。つまり、ろばの子に乗って来る王さまは、自分の強さを誇る王さまではなく、自分を低くしてみんなのために働いてくださる王さまなのです。神さまは、そのろばの子に乗った王さまによって、この世界から人殺しの道具である戦車や軍馬、あらゆる戦争の道具が廃棄され、世界中のすべての国に平和が実現すると約束されたのです。

それでは、神さまから遣わされたろばの子に乗った王さまとは誰のことでしょうか。いつ、そのような王さまがこの世界に来てくださるのでしょうか。新約聖書を見ると、その王さまこそがイエスさまであると教えています（マタイ21：4～9）。イエスさまはろばの子に乗った真の王さまとしてエルサレムの都に入場されました。そして、わたしたち人間を愛し、わたしたちの罪の身代わりとなって十字架で死んでくださいました。本来なら罪人であるわたしたち人間が背負わなければならない罪の重荷を、罪のない神の子であるイエスさまがすべて背負ってくださり、わたしたちの罪を完全に贖ってくださったのです。王さまであるイエスさまご自身が、ろばの子となって人間の罪の重荷を背負ってくださったのです。これによって、神さまとわたしたち人間との間に和解が生まれ、平和が与えられました（コロサイ1：20）。

しかし、イエスさまの平和はそれだけではありません。イエスさまの愛は、神さまと人間の間に平和を実現するだけでなく、人間と人間の間にも平和を実現するのです。イエスさまは、「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」（マタイ5：9）とおっしゃいました。わたしたちが心からイエスさまを信じ、神

さまの子どもとなる時、わたしたちもイエスさまが愛されたように、お友だちや他の人を愛することへと導かれます。わたしの中にあるイエスさまの愛が、わたしを導いて、平和を実現するために生きるよう励ましてくださるのです。

もちろん、わたしたちはイエスさまを信じ、神の子どもとされていても罪が残っています。ですから、お友だちとケンカをしたり、人を憎んだりしてしまうこともあります。また、この世界からすべての武器や戦争が廃絶され、世界に完全な平和が実現するのは、イエスさまが再び来られる終末の時です。しかし、それでも、イエスさまを信じるわたしたちは、少しずつではあっても、相手と仲良くすること、争いを止めて平和に生きることができるよう導かれているのです。ですから、わたしたちも自分の周りで、また世界の様々な所で苦しんでいる人、悲しんでいる人のために祈り、自分にできることをして仕えていくことが大切です。また、ケンカをしてはいけない、戦争をしてはいけないという声を、勇気を出してみんなに伝えて行くことが必要です。そのようにしてイエスさまの平和は前進してくのです。

いつの時代も、この世の権力者たちは、国を守るため、平和を守るためには軍事力が必要だ、武器や戦車、戦闘機が必要だと言います。そうやって国民を戦争に駆り立てて行きます。しかし、イエスさまは、「剣を取る者は皆、剣で滅びる」（マタイ26：52）とおっしゃって、軍備で平和を守ることにはできないと教えておられます。大切なことはイエスさまが、わたしたちを愛し、信頼することによって、平和を実現させてくださったように、わたしたちも力に頼ることを止めて、イエスさまの愛を信じ、隣人を信頼し、愛する勇気を持つことです。イエスさまは必ずこの世界に平和を実現させてくださいます。教会はそのことを信じ、世にあって平和の砦となって、どんな時も戦争に反対し、すべての民の平和のために祈り続けます。（弓矢健児）

《今週の暗唱聖句》

彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。（イザヤ書2章4節）

8月12日

【幼稚科】

平和を実現する

〈ねらい〉

けんかしたことのない子はいません。神さまは、けんかを悲しまれます。神さまに喜ばれる道はけんかではなく優しくすることにあることを教え、共に優しい心と行動を祈り求め、実践してみましょう。

〈展開例〉

国と国とが武器をもってけんかすることを戦争と言います。戦争は大人の人たちがするものです。だったら私には関係ないのでしょうか。違います。昔も今も、戦争で最初に傷つき、殺されてしまうのは、子どもたちやおじいちゃんやおばあちゃんです。

戦争しないための一番よい方法を知っていますか。人を殺す武器を持たないことです。戦争を始めるのは、いつも国の偉い人たちです。だから、そういう人たちに、絶対戦争してはだめだという「決まり」をつくってあげました。それを憲法と言います。イエスさまの教会は、この決まりを大切にしようと真剣に考えています。何故なら、聖書に書いてあることととても近い考えだからです。

神さまは聖書を通して、自分たちの国を守るのは武器ではなくて神さま御自身だと信じるようにお命じになりました。

イエスさまは、ユダヤ人の王様で、世界の王様です。多くの王様は、武器になる大きくて立派な馬が大好きです。それに乗りたがります。ところがイエスさまは、エル

サレムの都に入るために、ろば、それも子どものろばに乗って来られました。それは、「もう、これからは戦争なんて絶対ダメだよ」という意味です。

どうして人と人が殺し合うのでしょうか。それは大きな大きなけんかのようなものです。あなたはけんかしたことがありますか。友だちや兄弟のものが欲しいと言って、取ってしまったたり、大泣きして欲しがってお父さんやお母さんをこまらせたことがありますか。戦争は、人の心の中で始まるのです。そして、それは、イエスさまに喜ばれないですね。

ろばに乗るイエスさまは、自分のものを困っている人に分け与えてくださいました。けんかの反対は、やさしくすることです。そんな子になれば、イエスさまに喜ばれることは間違いありません。先生もそうなりたいです。一緒にお祈りしましょう。

〈やってみよう〉

けんかをしない方法は、自分からあやまることです。自分から誰かにやさしくすることです。今朝、自分から優しくしてみよう。大人の人やお兄ちゃんお姉ちゃんに自分から「おはよう」と挨拶してみましょう。

〈お祈り〉

天のお父さま、けんかをしたら、自分からごめんなさいと言えるようにしてください。イエスさまに喜ばれるやさしい心を与えて下さい。 アーメン

8月12日

【小学科上級・中学科】

平和を実現する

1. ゼカリヤ9：9～10を読みましょう。

① 9～10節では何が語られていますか。

② 「あなたの王」「神に従い、勝利を与えられた者」とは誰ですか。

③ イエスがこの世に来られて、世の中に何が告げられますか。

④ 男がイエスに願ったことは何ですか。

⑤ 平和を実現されたイエスにより、私たちはどう変わるべきだと思いますか。